

特許の「未来」を分析する

PatentPredictiveAnalyst

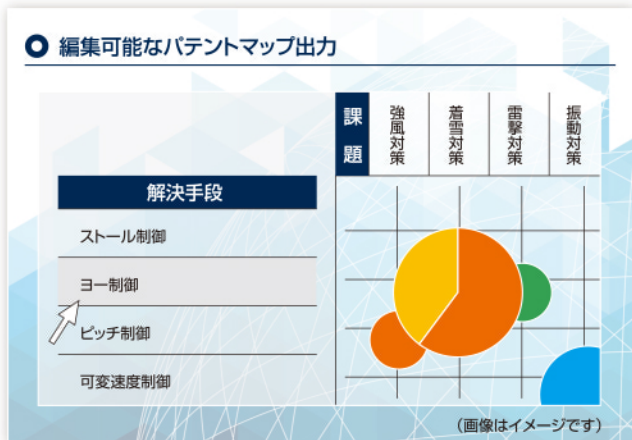
■ パテントマップを自動的に生成

PatentPredictiveAnalyst は、人工知能、自然言語処理技術を活用して、課題(発明の効果 / 目的)と構成(解決手段)を軸として持つバブルチャートで表現されるパテントマップ(課題-構成マップ)を自動的に生成するシステムです。本システムは、特許書類(特許請求の範囲、明細書)から、課題と構成を抽出し、抽出した課題・構成から軸項目を生成し、生成した軸項目を適切に並べるまでの全作業を自動的に行います。



■ インタラクティブなパテントマップを出力

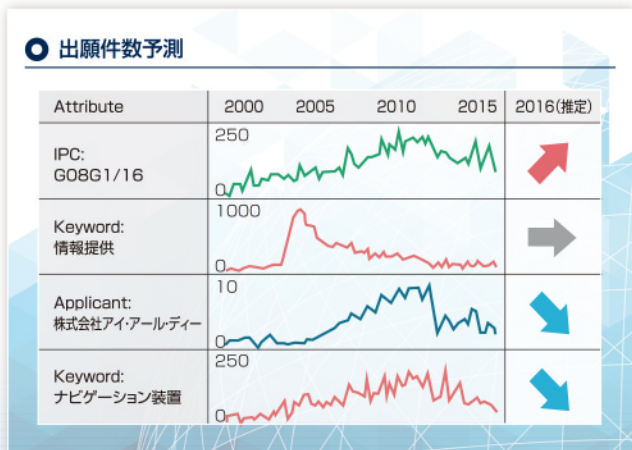
PatentPredictiveAnalyst は、Web ブラウザで閲覧・操作が可能なパテントマップを出力します。そのため、OS や場所を問わずに閲覧が可能です。また、出力されるパテントマップは HTML5 を利用したインタラクティブな様々な操作や編集が可能です。さらに、ブラウザ上に表示されているパテントマップのデータは、CSV(テキスト)や SVG(図)といった形式で出力も可能です。



■ 将来の出願件数を予測 (beta)

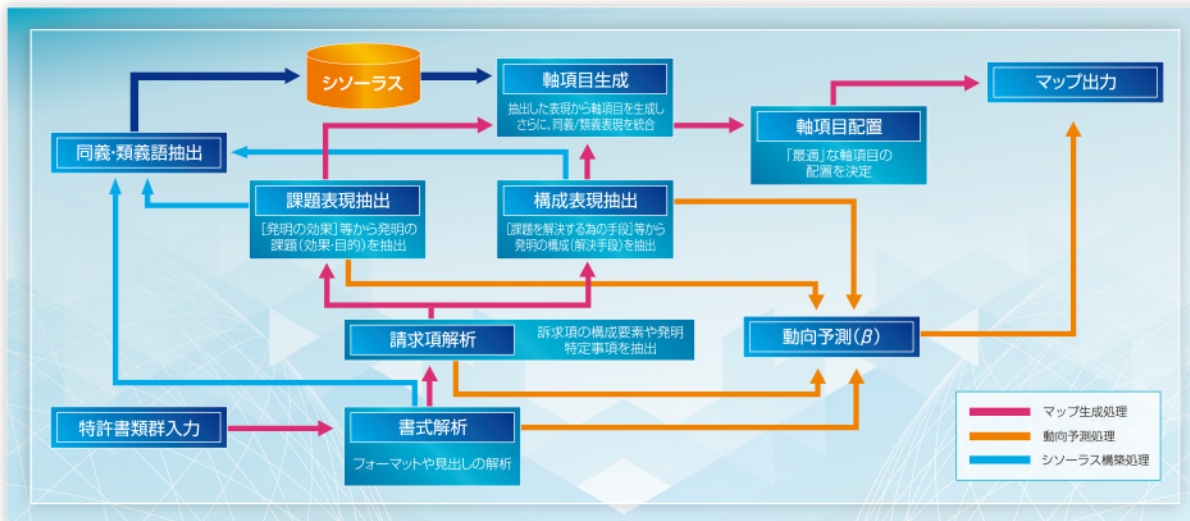
PatentPredictiveAnalyst では、ユーザが入力した特許集合に関する次年度の出願件数を人工知能を用いて予測をします。本システムは、ユーザが与えた特許集合や過去に出願された特許に関する様々な情報(過去の出願数の推移、特許書類に用いられた用語、引用関係等)を利用して、将来の出願傾向を予測します。

(本機能は beta 版です)



システム概要

PatentPredictiveAnalyst は、様々な自然言語処理 / 人工知能を利用し、パテントマップを生成します。パテントマップ生成処理では、はじめに、特許集合の各特許から発明の課題(効果 / 目的)と構成(解決手段)に関する表現を抽出します。次に、抽出した表現から軸項目を生成し、最後に、軸項目をどのように配置するかを決定します。さらに、パテントマップの生成と並行して、ユーザが入力した特許集合に関する技術動向の予測も行います。また、各段階の処理結果を取得することも可能ですので、他ツールとの連携も容易です。



パテントマップ

PatentPredictiveAnalyst が出力するパテントマップは、インターネットブラウザ上で操作可能なパテントマップです。例え巨大なマップであってもユーザは自由に表示範囲を移動することができます。また、軸項目の種類(課題、効果、出願人等)や配置(軸項目の順序等)を自由に変更することができます。さらに、ユーザは入力した特許集合の中から、その一部を自由に選択して、新たなパテントマップを生成することもできます。



動作環境

OS	Windows(推奨), macOS, Linux
ウェブブラウザ	Internet Explorer, Microsoft Edge, Google Chrome(推奨), Safari, Firefox (すべて最新版のみ, JavaScript必須)
スペック	計算機の性能によっては動作が鈍いことがあります

IRD 株式会社アイ・アール・ディー (IRD国際特許事務所)

〒540-0008 大阪市中央区大手前1丁目7番31号 OMMビル8階 私書箱53号
TEL: 06-6944-4530 FAX: 06-6944-4531 URL: <http://ird-pat.com>

